

2026 年度 一般入試

第 2 回

国 語

[注意事項]

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 下敷きおよび電算機つきの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は、濃くはっきりと書くようにしてください。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず、手を触れないでください。
- 6 試験中はよそ見をせず、きちんとした態度で行ってください。
- 7 何か物を落としたら、黙って手をあげてください。
- 8 他の受験生に迷惑となるような行為をしないでください。

一次の文章は、夏休みに地域のお寺の「てらこや」に通い、小さな子と遊んだり、住職のエイトクさんに数学を教えてもらったりしている、中学二年生の薫が主人公の物語です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

その朝、お堂の控え室に入ろうとしたら、いつも私がすわる席に、朋美がいた。朋美が話しかけると、かまってもらった子どもたちは楽しくて仕方ない感じだった。太一君が、私に気がついて、なにか言おうとしたとき、朋美が顔を上げていつものスマイルで私を見た。私は A 笑いしかできない。昨日まですわっていた席を通り越して、奥の隅にすわった。うしろからいやでも朋美の姿が見える。となりの太一君にカエルのイラストをかいてあげているらしい。太一君は楽しそうにカエル、カエルとさけんでいる。折り紙をしていた子もそれに合わせるように「わたし、カエルおれるよー、お姉ちゃん見て」と声を張る。天井が高いこの部屋は声がよく響き「朋美のカエル組」になったみたい。いやいや、子どもたちはかまってくれる年上が大好きなもの。そういうもの。そう自分に言い聞かせた私は、かばんから数学の宿題を取り出した。

けど。

今日は数字が意味のあるものに見えない。ひとしきり子どもたちとはしゃいだ朋美が私の方に来る気配がする。私は、ざっと荷物をまとめると、すぐに廊下に出て、ぞうきんがけをしていたエイトクさんに今日は体調が悪くて帰ると言ってしまった。いそいそでお寺を出る。庭をはいていたジジババオールスターズの大木さんの「薫ちゃん、帰るのかい？ 気をつけて」の声がセミの声と重なって聞こえた。その日の夕方、朋美からメールが来た。

「薫と話したかったんだけど、体調悪くなったんだってね、大丈夫？」

「ありがとう、大丈夫」

一応返す。

「エイトクさんって面白いね。てらこやいい感じ」

ドキンとした。私が手に入れた場所が完全に朋美のものになったような気がした。もちろん、あの閲覧板がまわる地域の人はだれが来たっていいし、むしろ同年くらいの子が来たらもっと楽しいかも思っていた。でも、朋美はてらこやに来る必要、ないじゃん。

私は中二になってすぐ、バドミントン部の練習中に足をねんざした。私とダブルスを組んでいた美波とは、中二になってクラスは分かれたけど、部活に来ればいつも一緒。でも、ケガで試合に出られない私に代わって、先生は美波とシングルスで出ていた子を組ませた。その相手が朋美だ。共通の話題ができた美波と朋美は急速に仲良くなっていき、そのペアは、バドミントンも強くなっていった。

美波は休んでいるあいだもメールをくれたり、学校で会っても気にかけてくれたりして、目に見えて、前より距離ができてしまった。足がまだ不完全だったとき、上半身のストレッチだけでも思っ部活に行ったことがあった。最初はみんな声をかけてくれたけど、すでに私がない日常ができあがっていた。前は

美波とふたりでしていたストレッチも、今は美波と朋美のおまけみたいにする。そのあいだも二人は私の知らないアニメの話で盛りあがってる。私にも話をふってくれるのだから仲間はずれとかではないと思う。いなかったのがいきなり戻ったのだから、多少のギャップは当たり前。そう思って、一週間出てみた。でも、二人のノリについていけなかった。

検診の日を理由に休み、それから足のケガが B 調子でないと行って夏休みになっても休みつづけている。そして、やっと、この夏いられる場所ができたと思ったのに、よりによって朋美が来るなんて。朋美は友達も多く、バドミントンも強い。活躍の場所があるんだから、ここに来なくてもいいのに。私はその日から、てらこやに行くのをやめてしまった。

「薫ちゃん、ゲートボールでもみんなが心配してるんだよ、急にお寺に来なくなったからって。なにかあったかい？」

おばあちゃんが眉を下げながら聞いてくる。

「べつに。あ！もう数学の極意がわかったので、だいじょうぶですってエイトクさんには伝えておいて」

私はガッツポーズを見せながらおばあちゃんに言った。おばあちゃんはもちろん納得するはずもなく、ため息をつきながら、自分の部屋に戻っていった。次の朝、起きると、お寺から一斉メールが来ていた。

「みなさん、おまちどうさまでした。ボランティアのみなさんが夏のあいだ世話をしてくれた野菜を収穫します。よかったら手伝いに来てくれませんか」

野菜の収穫。そういえば毎日オールスターズが世話をしていた。収穫か。あ！またイケメンも来たりして！なんて自分の気持ちを上げようとしても、まったくアガらない。部活と同じ気持ちになる気がして。私がリビングでぼけっとしていると、おばあちゃんが、

「薫ちゃん、おばあちゃん、どうしても今日お寺に収穫に行きたいんだよ。腰が痛くて心配だから、ついてきておくれよ」

④ 今にも泣きそうな演技で言ってくる。さっきまで、お風呂掃除してたよね？ゲートボールの素振りしてたよね？おばあちゃんのその必死さに、もう、なんか笑えてきた。ええ、行きましょう、お腰につけたキビ団子がなくなっちゃって、お供しますよ。

今日のお寺はジジババオールスターズと、それぞれが連れてきた家族でにぎわっていた。自分たちがつくった野菜を見てもうってうれしいことなんだな。私とおばあちゃんも裏の畑に行こうとしたとき、エイトクさんに呼びとめられた。今日は麦わら帽子すがたで、しっくりくる。

「青井さんは、あ、お孫さんの方ですね、こちらで、収穫した野菜をカットしてもらえますか」

私はエイトクさんについて、外の流し場に行った。もうすでに収穫してあったスイカやトマトが大きなたらいの中で冷やしてある。

「さあ、このスイカ、十二等分してみましよう！」

⑤ なんかうれしそう。その無邪気さにすこし腹がたって、

「なんで来なかったか、きかないんですか」

そう言ってしまった。

「ああ、そうですね。でも、今日来てくれたから、いいんじゃないですか」

なんだそりゃ。私の心はますますやさぐれていく。

「私、器うつわが小さくて、人のこと C 思えないみたいです。お寺に来てたら器って大きくなるんですかね」
私、エイトクさんにあたってる？

「ほうほう。たとえばどう小さいんですか？」

私はエイトクさんに部活のことを D 話した。朋美に対する思いとか。かなりソフトに。

「わかります。この人はなんて恵めぐまれてていいんだ、しかも、その人自身はそのことに気がついてないじゃないかって思うことありますよね」
エイトクさんは数式をうめるような、いつもの口調で言う。

「たとえば、この前お茶入れに来てくれていた、池田君！ 彼は本当にモテるんです。学校近くの定食屋さんでも彼のポテサラだけちょっと多かったり、女子学生がノートを見せてくれたり、もう、うらやましくて、うらやましくて」

私はスイッチを半分に切った。ザクリといい感触かんしよく。

「あまりにうらやましくて、池田君はいいなあって言っちゃったんですよ。ぼくもイケメンになってみたいって」

お坊さんぼくですよ。俗ぞくすぎませんか。スイッチをまた半分に。

「そしたら池田君が悲しそうな顔をして言うんですよ。『困るんだ』って」

「え？」

「なにかしてもらっても、その期待に応えられないことが多い。それで、なにもしないと、冷たいって言われるって。イケメンあるあるなのかもしれませんね。ぼくはそれを聞いてつくづく、今の自分でよかったって思うんですよ」

そこに行きつくの、はや！ またまた半分にカット。

「当の本人になってみなければ、わからないことがあるんですよー。あ、青井さんそれだと八等分ですね」
かなり厚いスイッチになってしまった。

「さっきの器の話なんですけどね、ぼくは器の大きな人ってそんなにいないと思ってるんです。それはかなり恵まれた人です。じゃあ、普通ふつうの人はどうするか？ ぼくは『^⑥いっぱいもてばいい』^⑥ と思ってるんです」

「え、器って、いっぱいもていいんですか？」

「わかりませんが、ダメとも決まっていらないでしょう。たとえば自分の中にたくさんの器があると思いますね。このことはあまり気にならないので器は大きめ、こっちは小さめ、なんてこと、たくさんあるでしょう。ひとつの器の大きさを決めてしまわないほうがいいかな、って思うんです」

器、大量生産論。私は居場所を取られるようなことには極小サイズの器。たまたま今はそこがクローズアップされてるのでしょうか。

* 太一……「てらこや」に通う幼稚園児。カエルが好きな男の子。

問一 — A — D — に入る語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A ア ひきつった イ 満面の ウ 得意げな エ せせら

B ア 全 イ 本 ウ 真 エ 良

C ア 意地悪に イ 厳格に ウ おおらかに エ つつましやかに

D ア のんびりと イ おもしろおかしく ウ 事細かに エ かいつまんで

問二 — 部①「朋美はてらこやに来る必要、ないじゃん」とありますが、そのように思った理由と、このときの薫（「私」）の気持ちをわかりやすく説明しなさい。

問三 — 部②「私はその日から、てらこやに行くのをやめてしまった」理由に当たる一文の最初と最後の五字を本文から抜き出しなさい。ただし、句点「。」は不要です。

問四 — 部③「極意」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

A 問題の解き方。

I 最も重要なことがらや本質。

U 一番わかりやすい説明。

E 何にでも当てはめられる数学の公式。

問五 — 部④「今にも泣きそうな演技」をおばあちゃんがするのはなぜですか。その理由として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A 本当はてらこやに行きたくてしかたがない薫の気持ちを察したおばあちゃんが、野菜の収穫という機会をエイトクさんをお願いして作ってもらい、てらこやに薫を連れて行くこうとしているから。

I 突然でてらこやに行かなくなった理由を薫が素直に話そうとしないので、腰を痛めたおばあちゃんのつきそいという理由を無理やり作り上げて、てらこやに薫を連れて行くこうとしているから。

U 腰を痛めたけれども、どうしても育てた野菜の収穫に行きたいおばあちゃんは、エイトクさんに会いたくない薫の気持ちを無視して、薫をてらこやへのつきそいとして連れて行くこうとしているから。

E 朋美と気まずい関係になっていることを知ったおばあちゃんが、二人を仲直りさせるためにも、寺で育てた野菜の収穫に薫を誘い、薫がてらこやへ再び通い始めるきっかけを作ろうとしているから。

問六——部⑤「その無邪気さにすこし腹がたって」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア てらこやへ薫が来なくなったことを、エイトクさんが少しも心配している様子がないから。

イ 薫は数学が苦手なのに、エイトクさんがスイカの十二等分という問題を出してきたから。

ウ 久しぶりにてらこやへ来た薫に、エイトクさんは面倒な手伝いをまかせようとするから。

エ 薫がてらこやに来なくなった理由を、エイトクさんは自分のせいだとわかっていないから。

問七——部⑥「いっばいもてばいい」とはどういうことですか。その説明として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 最初からどこでも活躍できる人は一人もいないので、誰もが、少しずつ持っている自分の長所を最大限に伸ばし、短所を少しでも改善して成長していくことで最終的にどこでも活躍できる人になるということ。

イ バドミントンが上手な人はバドミントンで活躍し、見た目のよい人はそれにより得をするように、それぞれの持ち味で活躍できる場が違うので、自分の活躍できる場を探して、そこで居場所を見つければよいということ。

ウ 器の大きさや色、形がさまざまにあるように人の見た目や個性もさまざまであるため、その人だけの見た目の美しさや個性を見つけ出し、それをおたがいに尊重しあって生きるということ。

エ 人にはそれぞれ本人にしかわからない事情があり、人が気にするところもそれぞれなので、自分だけのせまいものの見方にとらわれず、他の長所や才能にも目を向けて、自分も他人も受け入れていくということ。

二 次 の 文 章 を 読 み、後 の 問 い に 答 え な さ い。

●あちこちで出沒するクマたち

近年は、クマの出沒が大きな話題になっています。人が追いかけてサッカーのゴールネットで捕まえることができるシカや、力を合わせれば網から外せるウミガメなら A、牙や爪もあり、時には人を襲ってくることもあるクマとの関係はどう考えたらいいのでしょうか。

日本にはヒグマとツキノワグマの2種がいます。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州と四国にいます。ニホンジカがだいたい体重40～100キロなのに対して、日本のヒグマはメスでも体重が100～200キロ。オスはもっと大きくなり、最大で400キロにも達するとされています。それよりは小さいツキノワグマでも、体重100キロを超える個体もいます。 B、近づくにつれてサッカーのゴールネットをかけてみようと思えるような存在ではありません。

環境省が年度ごとに集めているデータによると、2023年度の被害は、ツキノワグマによる人身被害（ケガなど）は210人。そのうち4人が亡くなりました。同じ時点でヒグマによる人身被害は9人、死者は2人でした。環境省がデータを集めている中では、ツキノワグマは過去最多の被害、ヒグマも過去2番目に多い被害者が出ていました。

●学会から出た緊急声明

さながら日本中がクマ騒動に包まれる中で、「野生生物と社会」学会という団体が2023年11月に緊急声明を発表しました。研究者や専門家の人たちが集まって、野生生物と人との間で起きる問題を解決するために、様々な分野の専門知識や、現場で役に立ちそうな情報を社会に提供することが、この学会の役割の一つです。

声明には、クマがたくさん人里近くに出てくることについて、「直接の要因は、ブナ科堅果類（どんぐり）の大凶作」としつつも、これまでも数年おきに大量出沒が起きていたこと、そして、だんだん大規模になってきたことなどが書いてありました。ここ10年くらいの間に、クマの数が増えたり、分布している地域が広がったりしたことで、街の近くにすむクマも多くなり、なかには集落で放置されているカキなどの果樹に味を ① しまったことなども説明してありました。また、2000年以降に、クマの捕獲が抑えられてきたことも出沒が増えている要因として大きいということでした。

被害を防ぐ方法についても挙げられていました。まず、市街地の周辺でクマの捕獲を進めることや、不要な果樹を伐採して、クマを引きつけてしまうエサを取り除くことが必要だということでした。その上で、人とクマとの間でトラブルを減らしつつも、地域ごとにクマがちゃんと生きのびていけるような、適切な数や分布範囲に向けての管理や、そうした管理や被害の予測に必要なデータをたくさん集めるといった、少し長い目で見た対策を早く検討するようにアドバイスしていました。

（中略）

●怖いけど、共存するために

クマが増えたり、クマの分布が広がったりして、人の側に死者が出たり、大ケガを負ったりした人がいる以上、いざという時のための備えは必要でしょう。

C、クマに襲^{おそ}われた時にどうしたらいいのかといった身の守り方が紹介^{しょうかい}されることはあっても、これから先、クマとどう付き合^あっていったらいいのかという情報を目にしたり耳^{みみ}にしたりする機^き会はやや少ないように感じます。

クマからの身の守り方は、あくまで緊急時のその場 ③ といえます。クマに襲^{おそ}われにくい地域をつくっていくにはどうしたらいいのかということを考えると、毎年「クマに襲^{おそ}われたらどうしたらいいのか」というニュースを聞くこととなります。それでは、根本的な解決にはつながりません。「野生生物と社会」学会の問題意識^④はそこにありました。

また、クマを全部駆除^{くじょ}してしまえばいいのかといえば、それも違います。人にとってクマは時に恐ろしい存在ですが、森の中で木の実を食べた後にするフンを通して種子をまくといった、自然の中での大切な役割があります。そして、人の生活にとっても必要な存在になっています。

D、すばらしい自然が広がる北海道の知床半島^{しれとこ}には、たくさん人のヒグマがいることが知られています。ヒグマをはじめとする野生動物や美しい自然の姿を見ようと、国内外からたくさんの方が訪れます。半島の北半分を占める斜里町^{しやりまち}には、新型コロナウイルス感染症の流行前まで、毎年100万人を超える観光客が訪問していたそうです。当時の町の人口は1万1000人といったところなので、100倍近い人数です。ヒグマは町にとってなくてはならない存在だと言えます。私たちの暮らしのためには、クマにも生きていてもらい、共存することが求められています。

●「むしろ共存^{じやま}の邪魔^{じやま}をする」ことは？

そしてもう一つ、学会がとても心配していたのが、クマ対策に当たる人たちのことです。この章のシカやウミガメの話でもあったように、一部では、行政の窓口などにクマの捕獲にたずさわる人たちに対する大量のクレームや中傷^{*}のような抗議^{こうぎ}が寄せられていました。

学会の声明の中にはこんな一文もありました。

「愛護^{あいご}だけでは、地域社会のみならずクマ類の個体群をも守ることができません」

愛護^{あいご}には、「かわいがって大事にすること」といった意味があります。クマをかわいく思って大事にすることはもちろん必要ですが、人に害を及ぼす恐れがあるなら、対策も必要です。自治体の職員や、捕獲の技術を持つ人たちが、こうした対策に当たってくれています。

声明はクレームや中傷のような抗議に対して、クマ対策の必要性を改めて指摘しています。まず、クマは「付き合い方を間違えれば人命^{うづま}を奪^{うば}うこともあり、一定数の捕獲は欠かせない」として、人里に出没した個体などは捕獲することや、人の生活する場所へは入り込まないようにする対策が不可欠だということを強調しています。

そして、こうしたクマ対策は人とクマがこれからも共存していくためのものであること、そのために現場の人たちも苦しい気持ちの中で対策に関わっていることも紹介し、「関係者への配慮^{*}の無い電話や執拗^{しつよう}なクレームは、関係者の努力をくじき、かえってクマとの共存を妨^{さまた}げる結果を招きます」として、現場の人への配慮を呼びかけました。

クマを大事に思いながら、クマとの共存のために対策をすることは、別に相反^⑤することをしてしているわけではありません。それは人もクマも大事にするための努力

でもあります。

朝日新聞取材チーム『野生動物は「やさしさ」だけで守れるか? —命と向き合う現場から』より

掲載日付 二〇二四年七月十九日

承認番号 二六〇五五九

無断転載は法律で禁じられています。

* 声明……一般にむけて、広く発表すること。

* 中傷……わざと人のことを悪く言って名誉を傷つけること。

* 執拗……しつこい様子。

問一

A	く	D
---	---	---

 に最も適する語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ 少なくとも ウ ただ エ まだしも

問二

①	・	③
---	---	---

 に当てはまる言葉を、それぞれ三字で答えなさい。

問三 — 部②「少し長い目で見た対策」とありますが、具体的にどのようなようにすることか、本文中の言葉を参考に二つ書きなさい。

問四 — 部④「そこ」の指す内容として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本に住むクマの分布が広がったことで、人の側に死者が出たり、大けがを負ったりする人が増えていること。

イ 数年おきに街でのクマの大量出没が起きているが、その要因である森林破壊の解決策がまだ見つかっていないこと。

ウ クマに襲われにくい地域づくりについてよりも、クマに襲われたときの対策や備えの方が注目される機会が多いこと。

エ クマを全部駆除してしまうことで、北海道の知床半島を訪れる人が減ってしまうのではないかということ。

問五 — 部⑤「人もクマも大事にするための努力」とありますが、その努力の内容として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア クマを殺したり捕獲したりすることなく、人とクマが共存する方法を考えること。

イ クマ対策に当たる人々や行政の窓口に対し、あえてクレームを入れてでも、クマを保護すること。

ウ クマを愛護しつつも、必要に応じて捕獲したり、人里に入り込ませない方法を考えたりすること。

エ クマから身を守る方法を考えつつ、クマが自然の中で果たす役割を人々に広めていくこと。

問六 次の1～4の内容が本文と合っていれば○、誤っていれば×をそれぞれ書きなさい。

1 環境省によると、2023年度のツキノワグマの人身被害（けが）は210人、加えて死者は4名の計214名だった。

2 クマがたくさん人里に出ている直接の要因はクマのエサであるどんぐり不足だが、それ以外の要因も考えられる。

3 クマからどのように身を守るかという情報はよく目にするが、クマとどのように共存するかに関しては十分に議論されていない。

4 クマは自然界において、フンを通して種子をまくという役割を果たしているので、できるだけ殺さず、保護活動につとめるべきだ。

三 次の文章はさくらさんがおばの花子さんにあてた手紙です。手紙を読んで、後の問いに答えなさい。

① おみまい申し上げます。厳しい寒さが続いておりますが、おばさんはお元気でいらっしゃいますか。私も、みな元気に過ごしておりますので、どうぞご安心ください。

さて、先日はお年玉をお送りくださいまして、本当にありがとうございました。お年玉をお使いなされて、^②今まで買えなかった本を買いました。^③お父さんには「あまりむだづかいしないように」と言われたので、残りは大事に使いたいと思います。^④

春休みにそちらに遊びに行きます。おばさんと一緒に^⑤バーベキューをしたりお花見に行くのが楽しみです。最後になりますが、みなさまどうぞ元気で過ごしてください。

二月二日

大塚 花子様

跡見 さくら

問一 ① に最も適する語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 小春 イ 寒中 ウ 厳寒 エ 余寒

問二 部②～⑤の文には、それぞれ一つずつ誤りがあります。誤っている部分と、どのように直すべきかをそれぞれ答えなさい。

四 次の——部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 風のタヨりに聞く。
- ② タイガンの火事だと思ひこむ。
- ③ 私たちの生活はボウエキなしでは成り立たない。
- ④ いわばチクバの友と言える。
- ⑤ 選挙のカイヒョウ結果。

